

令和元年度

学生による地域活性化プログラム 活動報告書



石川英樹ゼミナール



鯉江康正ゼミナール



権 五景ゼミナール (十分杯)



平田沙織ゼミナール (商品開発)



栗井英大ゼミナール



広田秀樹ゼミナール



平田沙織ゼミナール (模擬店)



権 五景ゼミナール (酒粕)

令和2年2月

ごあいさつ

長岡大学 学長 村山光博



長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成 19(2007)年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）に選定された「学生による地域活性化提案プログラム—政策対応型専門人材の育成—」の始まりから、これまで十数年に渡り継続・発展して参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムの一つであると言えます。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この取り組みが地域の活性化に充分に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域のたくさんの皆様から各取り組みテーマへのお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。最近では、取り組みの中心である学生の活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も多くなりました。地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご協力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えを述べることは難しいと思いますが、本プログラムでは、答えの無い様々な地域課題に対して、それらの課題をどのように考え、どのように行動を起こして対応して行くのかを学生が自ら体得していくことができます。本学を卒業後に地域社会の一員となる学生が、将来このような地域課題に対して日々取り組むことになることを考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めて行くことになりますが、時には学生同士のちょっとしたすれ違いや一緒に活動する地域の大人たちとの意見の食い違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一步、人として成長するためのきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむ中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

なお、本プログラムは「令和元年度 新潟県大学魅力向上支援事業」の採択事業として行われましたことを申し添えます。

令和2年2月

学生による地域活性化プログラム 令和元年度活動報告書

第 I 部

学生による地域活性化プログラム 令和元年度 活動報告書 第Ⅰ部

目 次

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要	I-1
1.1 プログラムの位置づけ	I-1
1.2 プログラムの概要	I-1
第2章 令和元年度取組の経過	I-4
2.1 令和元年度取組の経過	I-4
2.2 令和元年度の学生による地域活性化取組ゼミ	I-5
2.3 令和元年度の推進体制	I-6
第3章 本取組における学生教育の評価	I-7
3.1 「地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の伸長	I-8
3.2 ビジネス展開能力の評価	I-10
3.3 参加学生の地域理解度の評価	I-12
第4章 取組結果のまとめ	I-14
4.1 今後の課題	I-14
4.2 取組結果の概要	I-15
参考資料	
1 学生による地域活性化プログラム令和元年度成果発表会（ポスター）	I-23
2 社会人基礎力診断シート	I-24
3 令和元年度「学生による域活性化プログラム成果発表会」意見シート	I-25
4 令和元年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート	I-26

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

1.1 プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化G P）を継続的に行う取組であるが、提案にとどまらず具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力と地域貢献を目指すものである。

地域活性化G Pは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、本プログラムは「NPO法人長岡産業活性化協会（NAZE）との共同研究」や「地域コミュニティ」など、広く中越地域や新潟県を対象とした取組である。また、活動は本学3，4年生のゼミを基本とするが、ゼミを越えたチーム・任意団体でも良いことになっている。

（注）「学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー」については、長岡大学ブックレット第16号『長岡大学教育プログラムVI 学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー』を参照。

1.2 プログラムの概要

(1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られている。また、地域創生や人口減少問題もあり、地域問題は益々広域化し、より独自の方向性の検討が期待されている。

本プログラムにおいては、学生グループが長岡地域や新潟県の課題を対象に実地に調査研究を行い地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次，4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設ける地域連携アドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し、地域社会にフィードバックする、ことである。

(2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命として設立された。長岡大学の教育の基本は社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得である。この考えを実現するため、地域の産業界との緊密な連携の下に実践的教育を展開する「産学融合型専門人材開発プログラムー長岡方式ー」を確立した。

本プログラムは既に確立している長岡大学の教育プログラムをさらに発展させ、産業界だけでなく、まちづくりや生活環境の改善など地域社会のニーズにも貢献できる人材を育成することを第一のねらいとしている。長岡地域は、この15年の間に「7. 13水

害」、「中越大震災」、「豪雪」と多くの災害にみまわれてきた。そのような経験の中で、地域社会が必要とした人材は、自分で判断して行動できる実践力のある人材であった。本取組は、学生をこのような地域が求める人材に育て上げることを目的としている。

(3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人材を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本取組は、上記のような本学の教育の目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動をも含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材育成を目指すものである。

(4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力(アクション力、シンキング力、チームワーク力)の向上
- ② ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上
- ③ 専門的技法に関するスキルの向上

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用）、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用）、社会調査技法（アンケート、インタビュー）、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。なお、専門的技法については「学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー平成19年度活動報告書」（平成20年3月、長岡大学）を参照。

上記の能力と技法を身につけ、実際に長岡地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として歓迎されると考えている。

(5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題解決型教育（Problem-based Learning, Project-based Learning, PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ① 実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）
 - ② 参考になる情報やデータの収集（実課題に関する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）
 - ③ フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）
 - ④ 報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）
- の4つのステップで構成されるが、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。それについては「4.2 取組結果の概要」を参照。



第2章 令和元年度取組の経過

2.1 令和元年度取組の経過

令和元年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は次のとおりである。

<令和元年度取組の経過>

4月18日（木）	令和元年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催
5月23日（木）	令和元年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月19日（水）	令和元年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
6月20日（木）	令和元年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
7月18日（木）	令和元年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
8月22日（木）	令和元年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
9月17日（火）	広田ゼミ：中間レビュー
9月19日（木）	令和元年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
10月10日（木）	令和元年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
10月26日（土） ～27日（日）	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
11月5日（火）	権ゼミ（酒粕）：中間レビュー
11月14日（木）	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月18日（月）	平田ゼミ：中間レビュー
11月25日（月）	栗井ゼミ：中間レビュー
11月26日（火）	石川ゼミ：中間レビュー
11月26日（火）	権ゼミ（十分杯）：中間レビュー
12月7日（土）	令和元年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月18日（水）	令和元年度第2回地域活性化プログラム推進協議会・交流会開催 於：長岡大学
11月21日（木）	令和元年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
12月19日（木）	令和元年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
1月23日（木）	令和元年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
2月26日（水）	令和元年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各取組8分冊）

2.2 令和元年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は6ゼミ8取組が実施された。各取組の活動報告については「第4章 取組結果のまとめ」を、学生が作成した成果報告については「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照。

<取組ゼミとテーマ>

ゼミ名	テーマ
石川英樹ゼミ	栃尾地域のPRによる活性化 ～商品の開発・販売とバスツアーの観光開発～
鯉江康正ゼミ	「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい！
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を盛り上げよう！
平田沙織ゼミ	商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 ー地域に貢献する商品開発を通じてー
栗井英大ゼミ	長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！
広田秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション ー草の根・地域からの人類一体化の推進
平田沙織ゼミ	商いを通じて学ぶ会計と経営戦略ー繁盛する模擬店を目指してー
権五景ゼミ	酒粕で長岡を盛り上げよう！

(注) 成果発表会での発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。



2.3 令和元年度の推進体制

令和元年度の「学生による地域活性化プログラム」の推進体制は、次のとおりである。

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
株式会社フーゲツ	代表取締役社長	千葉 智
長岡市地方創生推進部政策企画課	課長	大矢 芳彦

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
green philosophy (グリーン・フィロソフィー)	代表	大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なぶう	オーナー	若井 由佳子
全国まちの駅連絡協議会	関東甲信越運営幹事	中川 一男
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	コーディネーター	太田 道子
株式会社長谷川陶器	代表取締役	長谷川 真
魚沼市役所産業経済部農政課	主事	中澤 司
朝日商事株式会社	物販統括マネージャー	平田 誠
株式会社FARM8	代表取締役	樺沢 敦
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
長岡市商工部工業振興課	課長補佐	渡辺 裕司
デザイン事務所オオタケコウスケ	代表	大竹 幸輔
espoir (エスポワール)	代表	高林 正和
岩塚製菓株式会社商品企画部	係長	小黒 和幸
長岡商工会議所営業推進部営業サービスグループ	主幹	片桐 康成

<学内推進委員>

所 属	職 名	氏 名
地域活性化ゼミナール担当教員	教 授	広田 秀樹
地域活性化ゼミナール担当教員	教 授	鯉江 康正
地域活性化ゼミナール担当教員	教 授	石川 英樹
地域活性化ゼミナール担当教員	教 授	権 五景
地域活性化ゼミナール担当教員	准教授	栗井 英大
地域活性化ゼミナール担当教員	専任講師	平田 沙織

第3章 本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける教育上の最も重要な目標は、社会人基礎力の向上にある。社会人基礎力は、多様な個性をもった多数の人間で構成される「現実の社会」で、生き抜くために必要な基本的能力である。

これから現実の社会で働き、生き抜いて行く必要がある若者が、身に付けなければならない能力である。長岡大学にあっては、学生の社会人基礎力を最大限伸長させることを重視し、あらゆる機会を通じて、学生の能力向上にチャレンジしている。地域活性化プログラムこそ、社会人基礎力育成教育の支柱である。

社会人基礎力は、大別して、アクション力・シンキング力・チームワーク力で成り立つ。そして、アクション力・シンキング力・チームワーク力は、以下のようなそれぞれの「サブレベル能力」で、構成される。

アクション力は、「主体性・働きかけ力・実行力」の3つの「サブレベル能力」で、成り立つ。

チームワーク力は、「発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力」の6つの「サブレベル能力」で、構成される。シンキンキング力には、「課題発見力・計画力・創造力」の3つがある。

社会人基礎力は「12のサブレベル能力」で構成され、「12のサブレベル能力」を伸ばすことが、「社会人基礎力全体」を伸ばすことにつながる。

長岡大学は「参考資料2」のような、「12のサブレベル能力とは何か」、「12のサブカテゴリーで、自分が今、どの程度の段階にあって、どのサブレベル能力を伸ばして行くべきか」を明確にした、独自の「社会人基礎力診断シート」を開発した。

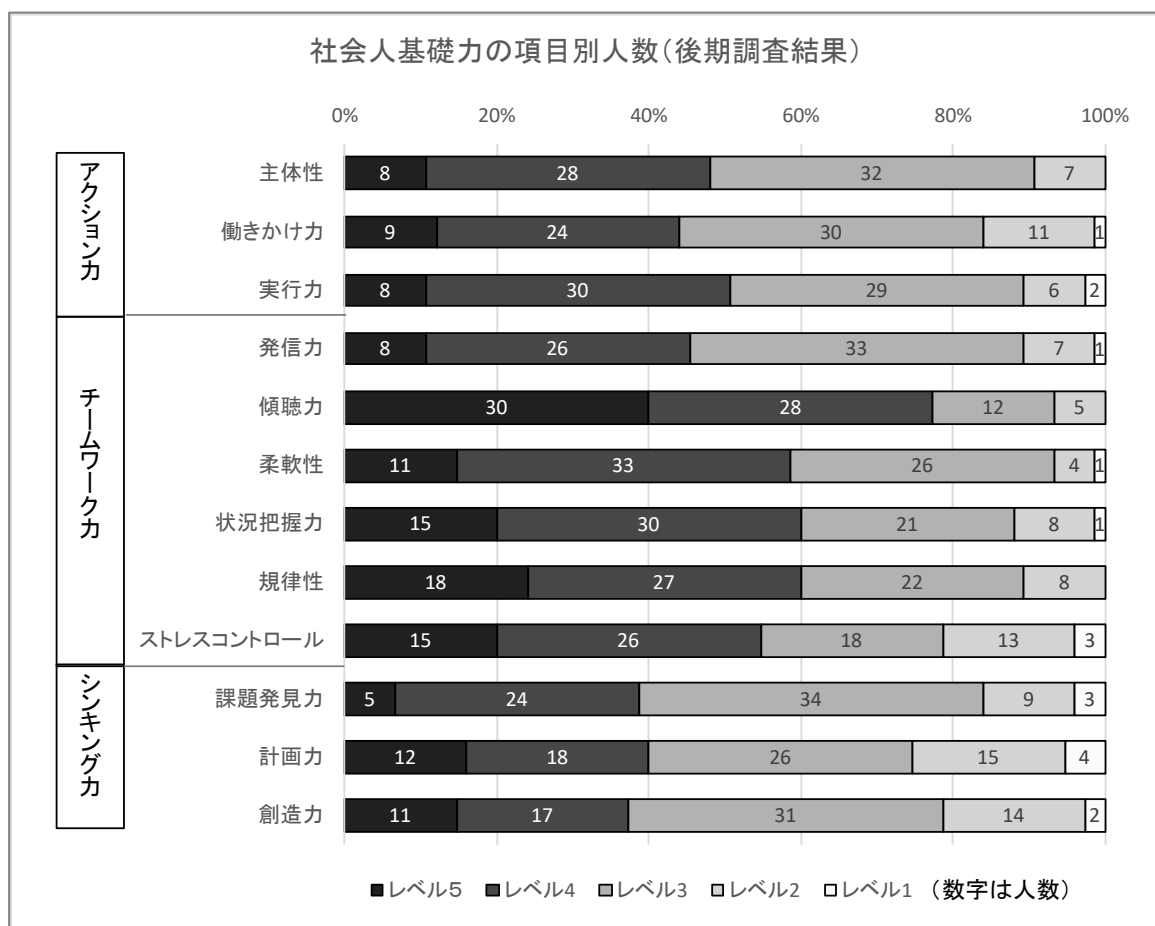
このシートは、「学生がイメージしやすいわかりやすい文章」でできている。シート活用によって、学生は「社会人基礎力の12のサブレベル能力」を、先ずよく理解することができる。そして、今自分が、各サブレベル能力カテゴリーで、5段階中のどの段階にあって、今後どの能力を伸ばしていかなければならないか、ということを認識できる。

このシートを活用した調査を、地域活性化プログラムの始まる前期と、プログラムでの活動を経験した最終段階の後期の2回実施した。

3.1「地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の伸長

今年度の地域活性化プログラムへの参加学生は、90人であった。その中で、社会人基礎力の「前期調査の総得点」から「後期調査の総得点」が伸長した学生は、56人（62.2%）であった。

学生の社会人基礎力を伸長させた要因の中には、課外活動、友人との交流、アルバイト、就職活動等、多様なファクターが入ってくるが、地域活性化プログラムへの参加が社会人基礎力を伸長させた重要な要素であると考えられる。



社会人基礎力シートの「12のサブレベル能力」においては、5段階評価の「3」が平均的水準である。概ね、「3」より低い数値をつける学生は少なかった。「12のサブレベル能力」で、極端に低く実感する学生は少ない。

5段階評価において、「高い数値」に入る「4以上」の視点で、学生の「12のサブレベル能力」を、地域活性化プログラムが最終段階に入ったときのデータ、「後期調査」で俯瞰してみると、以下のようなことがわかる。

アクション力の「主体性」で「4以上」の学生は、36人、全体の48.0%。「働きかけ力」で「4以上」の学生は、33人、全体の44.0%。「実行力」で「4以上」の学生は、38人、全体の50.7%、である。

—「アクション力」で高い数値「4以上」の学生＜後期調査結果＞—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
主体性	36 人	48.0%
働きかけ力	33 人	44.0%
実行力	38 人	50.7%

チームワーク力の「発信力」で「4以上」の学生は34人、全体の45.3%。「傾聴力」で「4以上」の学生は、58人、全体の77.3%。「柔軟性」で「4以上」の学生は、44人、全体の58.7%。「状況把握力」で「4以上」の学生は、45人、全体の60.0%。「規律性」で「4以上」の学生は、45人、全体の60.0%。「ストレスコントロール力」で「4以上」の学生は、41人、全体の54.7%、であった。

—「チームワーク力」で高い数値「4以上」の学生＜後期調査結果＞—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
発信力	34 人	45.3%
傾聴力	58 人	77.3%
柔軟性	44 人	58.7%
状況把握力	45 人	60.0%
規律性	45 人	60.0%
ストレスコントロール力	41 人	54.7%

「シンキング力」の「課題発見力」で「4以上」の学生は29人、全体の38.7%。「計画力」で「4以上」の学生は30人、全体の40.0%。「創造力」で「4以上」の学生は、28人、全体の37.3%、であった。

—「シンキング力」で高い数値「4以上」の学生＜後期調査結果＞—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
課題発見力	29 人	38.7%
計画力	30 人	40.0%
創造力	28 人	37.3%

総じて、各サブレベル能力全体で、参加学生の5割近くが高い水準にあることがわかる。



3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、成果発表会において、参加者（地域連携アドバイザー、一般参加者、本学学生、本学教職員）から「地域活性化プログラム成果発表会意見シート（参考資料3）」にて、取組の評価等をいただいた。意見シートは、334名に対して274名回収できた。回収率は82.0%である。当日は8取組の発表がなされた。

(1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で90.9%であった。概ね評価されたのではないかと考えられる。しかし、今後活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わっていく可能性もあることから、この点は引き続き担当教員が指導していくことが望まれる。

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

		合致していた	あまり合致していない	合致していなかった	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー12人	74	18	2	94	2	96
	一般51人	287	36	3	326	82	408
	学生193人	1,341	99	6	1,446	98	1,544
	教職員18人	111	15	3	129	15	144
	合計274人	1,813	168	14	1,995	197	2,192
構成比（%）	アドバイザー12人	78.7	19.1	2.1	100.0		
	一般51人	88.0	11.0	0.9	100.0		
	学生193人	92.7	6.8	0.4	100.0		
	教職員18人	86.0	11.6	2.3	100.0		
	合計274人	90.9	8.4	0.7	100.0		

(2) 取組は地域活性化に役立つ

各取組の地域活性化については、「役立つ」という回答は、全体で75.8%であった。しかし、アドバイザーは68.1%、教職員は63.6%と一般の方や学生と比較するとやや低い結果となった。再度、大学内における方向性の確認、意見統一が必要ではないかと考えられる。

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

		役立つ	どちらともいえない	役立たない	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー12人	64	27	3	94	2	96
	一般51人	243	74	8	325	83	408
	学生193人	1,123	291	33	1,447	97	1,544
	教職員18人	84	45	3	132	12	144
	合計274人	1,514	437	47	1,998	194	2,192
構成比（%）	アドバイザー12人	68.1	28.7	3.2	100.0		
	一般51人	74.8	22.8	2.5	100.0		
	学生193人	77.6	20.1	2.3	100.0		
	教職員18人	63.6	34.1	2.3	100.0		
	合計274人	75.8	21.9	2.4	100.0		

(3) 取組の評価

取組の評価については、「高く評価できる」が 53.3%であった。また、「評価できる」まで加えると 92.7%で、昨年同様、それなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生をみると両者の合計は 95.3%である。この結果からも、シンポジウム等への参加機会や学生間の交流機会を増やしていくことが、学生の興味を引き起こし、社会人基礎力を向上させたり、ビジネス展開能力を養成したりするために必要であると思われる。

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

		高く評価できる	評価できる	やや物足りない	あまり評価できない	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー12人	34	50	11	0	95	1	96
	一般51人	132	152	42	5	331	77	408
	学生193人	856	522	62	7	1,447	97	1,544
	教職員18人	47	65	19	1	132	12	144
	合計274人	1,069	789	134	13	2,005	187	2,192
構成比（%）	アドバイザー12人	35.8	52.6	11.6	0.0	100.0		
	一般51人	39.9	45.9	12.7	1.5	100.0		
	学生193人	59.2	36.1	4.3	0.5	100.0		
	教職員18人	35.6	49.2	14.4	0.8	100.0		
	合計274人	53.3	39.4	6.7	0.6	100.0		

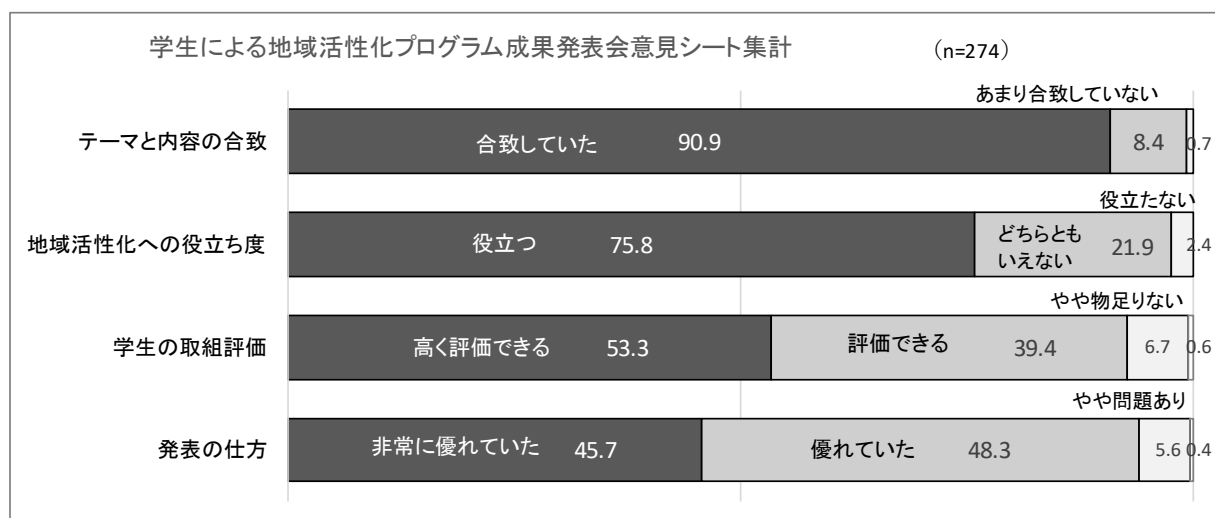
(4) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が 45.7%、「優れていた」が 48.3%であった。このプログラムでは、実際に発表する学生は毎年変わるため、壇上で一般市民をも含めた方々の前での発表は初めての経験という学生が多い。しかし、各ゼミの活動が年々成熟度を増し、伝統化する中、発表スキルについても展開されるレベルが年々高まっていると考える。

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

		非常に優れていた	優れていた	やや問題あり	問題あり	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー12人	25	62	6	0	93	3	96
	一般51人	72	215	35	3	325	83	408
	学生193人	785	596	57	4	1,442	102	1,544
	教職員18人	26	86	14	0	126	18	144
	合計274人	908	959	112	7	1,986	206	2,192
構成比（%）	アドバイザー12人	26.9	66.7	6.5	0.0	100.0		
	一般51人	22.2	66.2	10.8	0.9	100.0		
	学生193人	54.4	41.3	4.0	0.3	100.0		
	教職員18人	20.6	68.3	11.1	0.0	100.0		
	合計274人	45.7	48.3	5.6	0.4	100.0		

「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」集計グラフ



3.3 参加学生の地域理解度の評価

本プログラムは令和元年度新潟県大学魅力向上支援事業として採択され、その成果指標として参加学生の地域への理解度向上を評価するために、地域活性化プログラムに関するアンケートを実施した。

問１．所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
高まった	69 人	88.5%
どちらともいえない	9 人	11.5%
高まっていない	0 人	0.0%
合計	78 人	100.0%

「地域への理解が高まった」と回答した学生が、88.5%であった。9 割近い学生が、自分が生きている地域について、あらためて新鮮な発見をし、可能性、潜在力を実感したようである。地域活性化プログラムは、「地域理解教育」としての重要な機能があることを認識した。

問２．地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
役立った	67 人	85.9%
どちらともいえない	10 人	12.8%
役立っていない	1 人	1.3%
合計	78 人	100.0%

「地域の活性化に役立った」と回答した学生が、85.9%であった。8割以上の学生が、地域活性化プログラムが、多様な視点で、地域の創生、発展、そこに生きる人々の幸福に寄与する取り組みであると実感してくれたものとする。

いつの時代も、若者の内面には、他者の幸福への貢献、地域への貢献、時代開拓への貢献といった「純粋な使命感、正義感」が存在する。その崇高な思い、意志が、若者特有の圧倒的な体力、行動力、創造力、冒険心、飛躍性と連動して、それが地域に展開されることが理想である。

問3. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなたの自身の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
上昇した	60 人	76.9%
どちらともいえない	15 人	19.2%
上昇していない	1 人	1.3%
合計	78 人	100.0%

「社会人基礎力は上昇した」と回答した学生は、76.9%であった。「どちらともいえない」と回答した学生は、19.2%。「上昇していない」と回答した学生は、1.3%であった。約 20%の学生が社会人基礎力の高い明確な伸長を実感しないのはおそらく、プログラムに参加する学生数が多く、プログラム進行上、「中心となって活躍する学生のグループ」と「何らかの理由であまり活躍しない、ないしできない学生のグループ」に分離してしまっているという実情があるためであるとする。今後は、参加学生全員が、自分の使命と役割を認識して、全員がお互いを励ましあいプログラムを進める「全員野球型」のプログラム運営を行うことが重要である。

問4. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
ほぼ全員が上昇した	45 人	57.7%
上昇した学生と上昇していない学生が半々位	30 人	38.5%
上昇していない学生が多い	1 人	1.3%
合計	78 人	100.0%

「ほぼ全員が上昇した」と回答した学生が、57.7%である一方、「上昇した学生と上昇していない学生が半々位」が、38.5%であった。「プログラムの取り組みの勢いに乗り成長しきれない学生」の存在があるものとする。前述の「全員野球型」のプログラム運営を推進することが今後の目標になってくる。

第4章 取組結果のまとめ

令和元年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、今後の課題と各取組の概要を整理しておく。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照。

4.1 今後の課題

長岡大学の「地域活性化プログラム」は、10年以上にわたって、学生の社会人基礎力を伸長させる教育プログラムの支柱になってきた。

今、人口構造の激変を背景に、日本の地域は異次元の困難な段階にある。地域での「内発的協力」こそが、持続的に地域社会を支え、安定させるために最も重要である。地域の中で、高い社会人基礎力を備えた若い人材が育成され、地域で活躍して行く大きな流れを創造する必要がある。

若き人材が身に付けるべき能力は複数ある。豊かな教養、高度な専門知識、高度な思考力といった、伝統的な大学のアカデミックな要素も、長岡大学は徹底して提供している。学生の知的水準は、飛躍的に高くなっている。

しかし、近年の若者は、幼少の頃から、スマートフォン、ゲーム機器といった、「一人で充実できる環境」の中で育ち、「対人力・対話力・組織人としての能力」といった、激動する社会で生き抜くための必須の能力が、十分につけられない環境にある。20年、30年前の、それらの能力を大半の若者が、自然に身に付けていった時代と現代は全く違う。

現代の若者も、生き抜くため、多様な個性をもった人間群の嵐の中で、糧を得ていかなければならない。そのため、従来の大学が提供していたアカデミックな学習のみでは、不十分である。この一点を、最も早く認識し、地域活性化プログラムという、学生に地域での「体当たりの体験学習」を提供する教育手法を導入し、軌道に乗せたのが、長岡大学である。

「地域活性化プログラム」に参加した多くの学生が、現実の地域に生きる人間の中に、飛び込み、悪戦苦闘する中で、「12の能力」を確実に身につけている。予想外の事態が何度も起き、面くらい驚き、それでも悪戦苦闘をつきぬけ、見事にプログラムを継続し、結果として、社会人基礎力を飛躍的に伸ばした学生を、本年度も多くみた。社会人基礎力を鍛えるため、絶大な体験学習の場を踏めるのが、長岡大学の「地域活性化プログラム」である。

このプログラムに思い切って参加し飛び込む学生を、さらに一人でも増やして行くことが、課題である。当初は、3年生からのみ参加できる「地域活性化プログラム」であったが、近年、2年生から参加できるように、制度変更した。

その結果今年度も、2年生から参加する学生が現れてくれた。その学生たちは、机上の学習はもちろんしてきた優秀な学生であった。しかし、いま自分が不足している「社会人基礎力」を何とか伸ばしたいと、地域活性化プログラムに参加し、体当たりで地域に飛び込み、チャレンジし、現実に大成した。

こういった学生の成長のドラマを着実に増やして行くことが、今後も大切である。

4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第Ⅰ部のまとめとしたい。



鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 地域を盛り上げたい！



【参加学生】 14名（3年生9名,4年生5名）

4年生 岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生、Tamir Ariunaa

3年生 Enkhbat Solongo、大竹一輝、小林萌香、小山陸、
智野虎太郎、沼沢純子、阳凱楓、
Bayarkhuu Tugsbold、Altanchimeg Delgermaa

【アドバイザー】

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事 中川一男 氏

NPO法人市民協働ネットワーク長岡コーディネーター 太田道子 氏

今年も合い言葉は『GO！』 活動は楽しく、やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

①新潟県内まちの駅交流会



②FMながおか「1分CMの作成」



③長岡大学学園祭



④「まちの駅&どまいち
春の物産フェア（見附市）」



⑤花はすボランティア



⑥「長岡市民活動フェスタ'19」



⑦「とうきび観音祭り（長岡市栃尾地域）」



⑧「今町まちなかマルシェ 2019（見附市）」



【越路マップの改訂】



権 五景
ゼミナール

十分杯で長岡を盛り上げよう！



【参加学生】 8名(3年生4名,4年生4名)
4年生 池田哲、渡邊聡、邵毅航、程梓菲
3年生 五十嵐凌、高尚、齋藤克裕、藤田歩乃香

【アドバイザー】
株式会社長谷川陶器 代表取締役 長谷川真 氏
魚沼市役所産業経済部農政課 主事 中澤司 氏

取り組み概要

長岡市に古くから伝わる戒めの盃「十分杯」を用いて、より長岡市を魅力的な街にするために日々活動しています。「十分杯を知っているよ」との声も増えてきていると感じている中、これまで以上に取り組みに力を入れていき、「長岡＝十分杯」というように長岡市の魅力と十分杯をより密接にするべく活動を行っています。

活動風景～十分杯広報～



長岡と十分杯の歴史

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡ります。

元禄時代(1688-1704 年)になると生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになりました。長岡藩も例外ではなかったのですが、高田城二の丸請収のための出費、度重なる水害で藩の財政が悪くなっていました。そこに、塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に忠辰公が感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになりました。

忠辰公は、十分杯を持つ「満つれば欠く」という処世訓を藩士に示すことで、財政を引き締める一方で、武士としての戒めを大事にしたと思われます。

十分杯の4つの特

- ① 杯なのに底に穴がある。
- ② 杯の中に「飾り」という突起がある。
- ③ 飾りの中は管が通っている。
- ④ この杯に一定の量(8分目程度)を超えて注ぐと中に入っていたすべてのお酒が底の穴から漏れてしまう。



「飾り」という突起



底に開けられた穴

平田沙織
ゼミナール

商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 －地域に貢献する商品開発を通じて－



【参加学生】22名（3年生 11名、4年生 11名）

4年生 荒木改、小林涼、志田和之、鈴木翔、鈴木康幸、永井ひとみ、
服部亜衣梨、藤田健広、星野大樹、Le Thi Thao、Munkhbat Tamir
3年生 牛田静華、浦澤萌香、大島日和、岡田凌輝、近藤亮太、高橋宏輔、
長谷川早紀、藤本雄生、皆川知洋、村山伝夢、吉田真理

【アドバイザー】岩塚製菓株式会社商品企画部 係長 小黒 和幸 氏
長岡商工会議所営業推進部営業サービスグループ 主幹 片桐康成 氏

平田ゼミでは、会計を実践的に学ぶため、『商い』をベースとした地域活性化（新商品開発と販売）を行っています。会計や経営戦略などを題材に自分で課題を見つけ、それをどのように解決していくのか、一人ひとりが一生懸命考えるゼミです。このゼミは、今年度から結成された新しいゼミです。企業とコラボレーションをして、長岡市や新潟県を盛り上げる新しい商品を開発しようという取り組みを掲げ、個性豊かでユーモア溢れる22人のメンバーが楽しく活動を行っています。開発している商品の種類はお菓子、お土産、文具など様々な商品種類があります。ゼミでは企業と連携し実際に商品を作り、販売することで実践的な商いを学んでおります。



2019年度は、米菓2チーム・チップス1チーム・洋菓子2チーム・和菓子1チーム・飲料2チーム・文具・イベントのグループに分かれて活動をしました。学生自身が選んだ企業に対して企画書を作成し新商品の提案をおこない、提案が通った企業と協力し試作品や商品作りをおこないました。今年度も引き続き岩塚製菓様とコラボレーションして、“若者向けのおつまみ（米菓）”の開発を、シャトレーゼ様とコラボレーションして“新潟らしいシュークリーム”の開発を、今年度から新たにガトウ専科様と“新潟コイクッキー”を、紅屋重正様と干菓子“ハレハレはなび”の開発をおこなっています。ガトウ専科様との新潟コイクッキーの開発では、他大学の学生や地元アーティスト（ひなた様）にもお知恵を頂き商品を開発しました。MAGNET様とは、工場見学や打ち合わせを通して“学生向けの穴あけパンチ”の開発について打ち合わせをおこないました。完成した商品は、県内のイベントで販売し、今後は協力企業の店舗での販売も控えています。また、商品の広報活動をハワイでもおこなうなど、広く認知されつつあり、今後は全国のセレクトショップや土産物店などでの販売も期待されています。見かけた際には、ぜひ一度ご試食いただけたらと思います。

最後になりますが、今年度で平田ゼミナールが終了します。4年生は2年間学んだ知識と経験を活かし社会で活躍することを祈っています。また、3年生は残り1年間も今年度以上に地域を盛り上げていってくれるのを期待しています。2年間という短い間でしたが、地域の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



栗井英大
ゼミナール

長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！



【参加学生】9名(3年生6名,4年生3名)

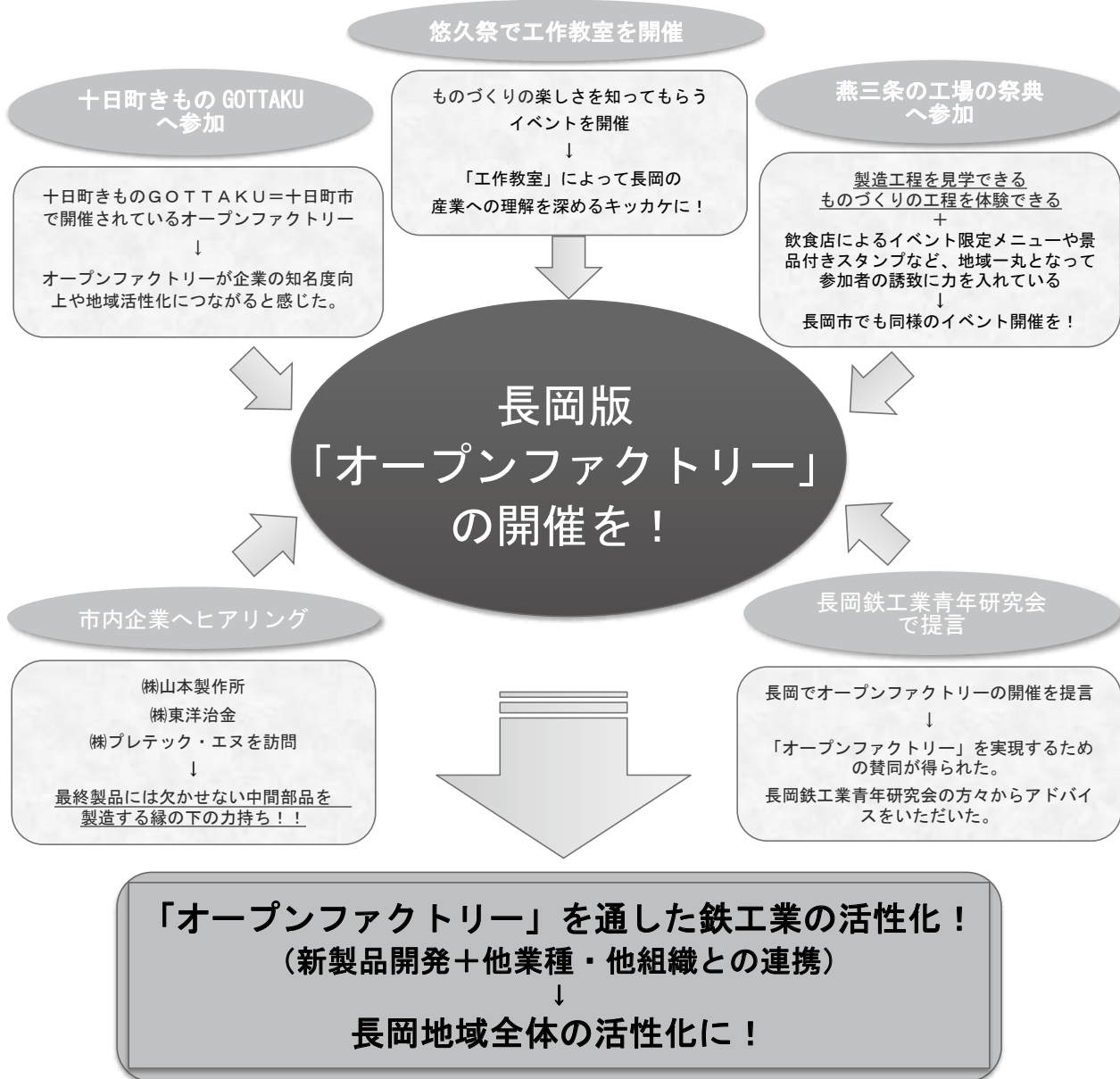
4年生 小口統為、古川大智、松井亮介

3年生 青柳智也、井木一真、伊藤圭祐、小林勇太、近藤優圭、庭山遼太

【アドバイザー】

株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹 氏

長岡市商工部工業振興課 課長補佐 渡辺裕司 氏



広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバル化ゼミナール －草の根・地域からの人類一体化の推進－



【参加学生】 24名(2年生2名,3年生8名,4年生14名)

4年生 尾木和磨、王馨悦、Nguyen Thi Thanh Phuc、佐藤光、徐晗、
邵群、住吉千穂、曹慧虹、政金光希、宮澤樹、諸橋摩耶、

Tran Thi Phuong Anh、黎雪锋、Vu Thai Thanh、Le Si Anh Phu

3年生 内山雄太、王俊豪、久保田晃平、白井優希、陶锦晔、長谷川侑大、
飛田野雄太、尹昊天

2年生 王懿倫、王浩田

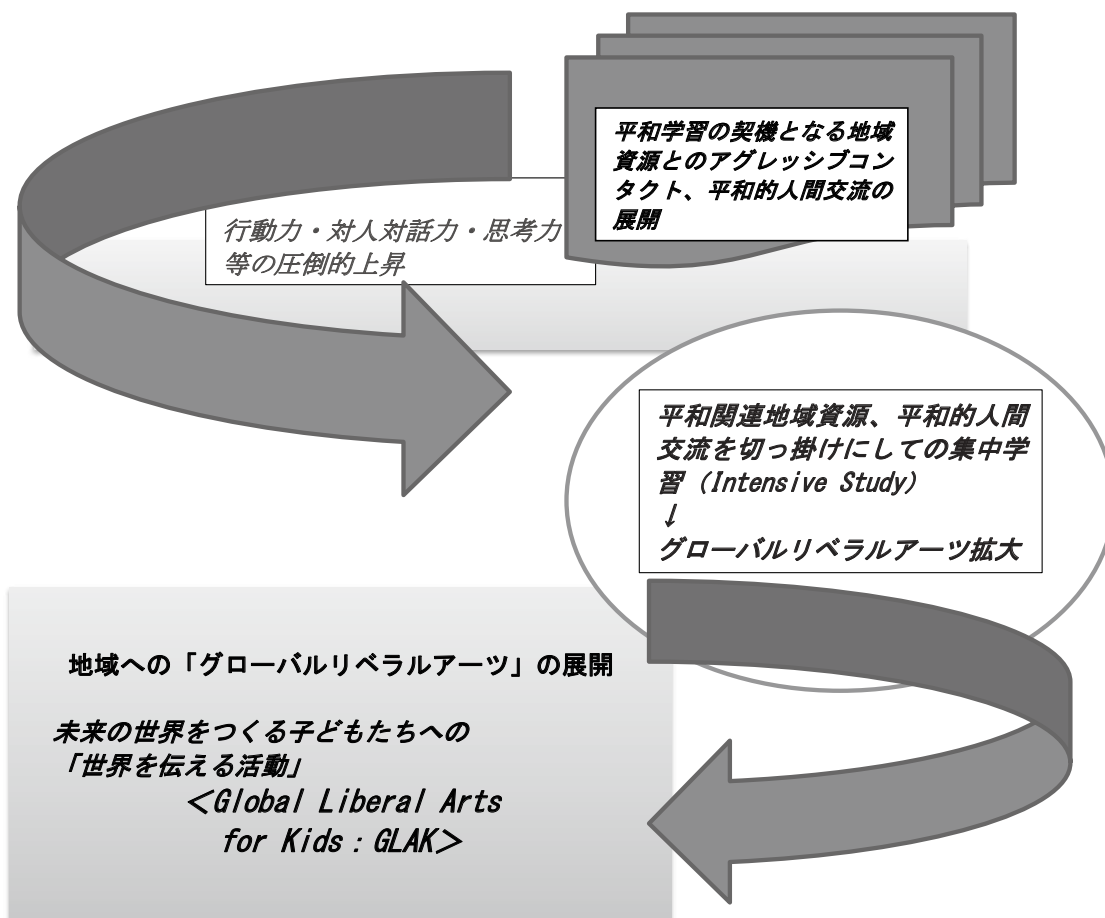
【アドバイザー】 green philosophy

代表 大出 恭子 氏

フェアトレードショップ・ら・なぶう 若井由佳子 氏

—本年度の活動テーマ—

「地域から平和を考える」



平田沙織
ゼミナール

商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 － 繁盛する模擬店を目指して－



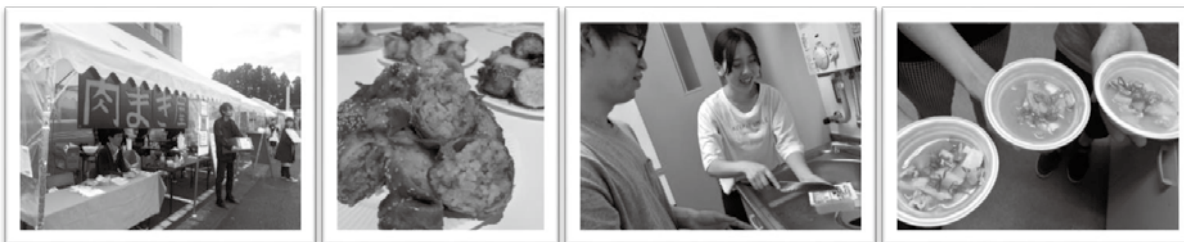
【参加学生】22名（3年生11名,4年生11名）

4年生 荒木改、小林涼、志田和之、鈴木翔、鈴木康幸、永井ひとみ、
服部亜衣梨、藤田健広、星野大樹、Le Thi Thao、Munkhbat Tamir
3年生 牛田静華、浦澤萌香、大島日和、岡田凌輝、近藤亮太、高橋宏輔、
長谷川早紀、藤本雄生、皆川知洋、村山伝夢、吉田真理

【アドバイザー】岩塚製菓株式会社商品企画部 係長 小黒 和幸 氏
長岡商工会議所営業推進部営業サービスグループ 主幹 片桐康成 氏

平田ゼミでは、長岡大学の特徴的な教育プログラムのひとつである「学生による地域活性化プログラム」に参加し、「商いをベースとして会計を実践的に学ぶこと」をテーマに長岡市や新潟県を盛り上げる新しい商品を開発しようという取り組みを行っています。会計や経営戦略などを題材に自分で課題を見つけ、それをどのように解決していくのか、学生一人ひとりが一生懸命考えるゼミです。個性豊かでユーモア溢れる22人のメンバーが楽しく活動を行っています。4月～5月には模擬店の店舗数や扱う商品の選定、6～8月には模擬店の企画書作成や商品のレシピの検討、9～10月には模擬店の戦略会議と本番の悠久祭での模擬店経営を行い、11～12月には成果発表会に向けてスライド作成と発表練習をおこないました。

模擬店経営では、今年も模擬店コンテスト1位獲得を目標に、5月頃から話し合いを進めました。今年度はゼミ生の人数が多かったため、3店舗出店することになりました。ブレインストーミングを用いた模擬店のアイデア出しを行い、模擬店で扱う商品を、肉巻きおにぎり・からあげ、豚汁に決定し、試作会を重ね、美味しさを追求するためにレシピを検討したり、形や重さ、値段とのバランスを考えました。さらに、利益が出るためにはどのように販売すればいいのかが販売戦略について試行錯誤し、訪問販売や模擬店のブランド化等アイデアを出し合いました。その結果、悠久祭では、模擬店コンテスト1位と3位を頂くことができました。満足な結果を出すことができ、平田ゼミナールとしての目標を達成できたと思います。



成果発表会においては、商品開発でも昨年度からお世話になった岩塚製菓株式会社品質保証部係長の小黒和幸様と長岡商工会議所営業推進部担当主幹の片桐康成様のお二人にアドバイザーとして就任していただきました。成果発表会の前には、大学へ足をお運びいただき貴重なアドバイスを頂きました。また、頂いたアドバイスをもとに成果発表会での発表内容を改善することができ、本番は内容が濃く充実した発表にすることが出来ました。お忙しい中、快くご協力いただきましたアドバイザーのお二人には厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、今年度で平田ゼミナールは終了します。4年生は2年間学んだ知識と経験を活かし社会で活躍することを祈っています。また、3年生は残り1年間も今年度以上に地域を盛り上げていってくれるのを期待しています。2年間という短い間でしたが、地域の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



権 五景
ゼミナール

酒粕で長岡を盛り上げよう！



【参加学生】 8名(3年生4名,4年生4名)

4年生 池田哲、渡邊聡、邵毅航、程梓菲

3年生 五十嵐凌、高尚、齋藤克裕、藤田歩乃香

【アドバイザー】

株式会社FARM8 代表取締役 樺沢敦 氏

朝日商事株式会社 物販統括マネージャー 平田誠 氏

1. 《取り組み概要》

長岡は醸造のまちです。その中心は日本酒であり、酒造りの過程で得られる「酒粕」は地域資源と言えます。栄養価が高く、美容効果もあるという素晴らしい副産物でありながら、びっくりするほどの低価格で販売されていたり、一部は廃棄されてしまったりと、価値に見合った活用がされていないのが現状です。

そこで私たちは、「酒粕を長岡の特産品として輝かせたい」との思いから、活動を行っています。



2. 《とある酒蔵さんのお話》

小さな酒蔵でも、酒粕は年間に 16 t 出る

酒蔵の使い道として…

- ①一般消費者の方に販売（6％）
- ②粕取り焼酎用のカス（16％）
- ③食品メーカーに販売（16％）
- ④飼料用など（62％）

半分以上が有効活用されていない！

長岡の貴重な地域資源の多くを牛、豚にあげるだけではもったいない…もっと付加価値をつけたい！



酒粕を長岡の特産品として販売し、長岡の経済発展を目指したい！

3. 《権ゼミの提案》その1 酒粕を商品化するために 酒粕には新しいネーミングが必要！

1. “酒” 離れ

- 近年の若者は多くが酒、特に日本酒を好まない。
- “酒” と付くだけで「酒イコール酔う」というイメージで敬遠してしまう人がいる。

2. “粕” という名前に価値を感じない

- おからはカスだが、名前に“粕” と付かない。
- もしおからが、「豆腐粕」という名前だったら…価値が下がると感じる。

3. 若者は「酒粕」を知らない

- 若者に「酒粕」と言っても通じないことがある。
- 「酒粕」という名前は時代に合わない？



価値を感じるネーミングを考えなければ！！

4. 《権ゼミの提案》その2 酒粕を商品化するために 酒粕と西洋料理との融合！

✦ 和の食材と西洋料理は相性が良い

（例 あんパン、たらこスパゲッティ、カルパッチョ シベリア、抹茶アイス、ほうじ茶ラテ、イチゴ大福、柿の種チョコ etc…）

✦ しかし現在の酒粕活用は…

粕汁、粕取り焼酎、粕漬けなど
和×和の組み合わせが多い

✦ そこで和（酒粕）×洋の商品を作りたい！

令和元年度 学生による地域活性化プログラム

成果発表会

2019年12/7日

日時 13:00～16:30(受付12:15) 入場無料

会場 ホテルニューオータニ長岡「NCホール」 定員 300名

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

このプログラムは、学生が地域の課題を対象に調査研究を行い、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を実現することを目的としています。

学生の調査研究の結果や地域貢献活動に対して地元の方々から高い評価をいただく長岡大学の教育プログラムです。

発表会では、6 ゼミ、8 取組の学生が今年度の成果を発表し、担当アドバイザーから講評をいただきます。ぜひ、学生の発表をご覧ください。皆さまのご来場お待ちしております。

プログラム

- 1 栃尾地域のPRによる活性化 ～商品の開発・販売とバスツアーの観光開発～ …石川英樹ゼミ
- 2 「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい! ……鯉江康正ゼミ
- 3 十分杯で長岡を盛り上げよう! ……権五景ゼミ
- 4 商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 ―地域に貢献する商品開発を通じて― ……平田沙織ゼミ
……………休憩……………
- 5 長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう! ……栗井英大ゼミ
- 6 グラスルーツグローバリゼーション ―草の根・地域からの人類一体化の推進 ……広田秀樹ゼミ
- 7 商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 ―繁盛する模擬店を目指して― ……平田沙織ゼミ
- 8 酒粕で長岡を盛り上げよう! ……権五景ゼミ

お申込方法

お電話または下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
大学ホームページからもお申込みできます。

申込締切は12月2日(月)

FAX:0258-33-8792

(お問合せ先・お申込み)

長岡大学 教務課 TEL:0258-39-1600(代)

〒940-0828 長岡市御山町80-8

E-mail:kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学
ホームページへ



総合アドバイザー による総評

株式会社フーゲツ
代表取締役社長
千葉 智氏

長岡市地方創生推進部
政策企画課 課長
大矢 芳彦氏

氏 名				会 社 等	
住所・連絡先	〒				
電話番号			F A X		
E-mail					

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。※本事業は長岡大学「地(知)の拠点整備事業」(COC事業 平成25年度～平成29年度)の継続事業として行なうものです。

◆主 催／長岡大学 ◆後 援／長岡市・長岡商工会議所・NPO法人長岡産業活性化協会NAZE・公益財団法人にいがた産業創造機構

2019 年度社会人基礎力診断シート（第 1 回）

学籍番号:

氏名:

*該当するレベルを囲み、得点と総得点を計算して下さい

社会人基礎力 3 大能力	社会人基礎力 1 2 能力要素	レベル 1 <1 点>	レベル 2 <2 点>	レベル 3 <3 点>	レベル 4 <4 点>	レベル 5 <5 点>	得点
アクション (前に踏み出す 力)	主体性 (物事に進んで取り組む力)	他人に何度も指示されてから物事に取り組む	他人に指示された物事に対しては取り組みが、すべきことを主体的にみつけようとしな	他人に指示されることもあるが、すべきことを主体的にみつけようとする	他人の指示を待つのではなく、主体的にすべきことをみつけられる	自分の状況を判断したうえですべきことをみつけ、率先してやりとげられる	
	働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)	困っていても他人に協力を求められない	親しい人には協力を求められるが、親しくない人には声をかけられない	親しい人にも親しくない人にも協力を求めて声をかけられる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明できる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明し、共に行動できる	
	実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	目的・目標を決めずに行動することが多い	目的・目標は設定するが失敗を恐れて目標を低くしたり他人に任せたりすることがある	自分の能力に見合った目的・目標を設定できる	目的・目標達成のために何をすべきかを考え行動できる (やるべきことを書き出す、やるべきことの順序づけ等)	目的・目標に対し具体的なステップを念頭に置いて行動できる (どれくらい時間・費用がかかるか、失敗したときのリカバリー等)	
チームワーク (チームで働く 力)	発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうと思えない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらいたいと思うが、行動に移せない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうための行動がとれる	自分の意見をわかりやすく伝え、他人の理解や協力を得ることができる	言葉遣い、話の構成、資料を工夫し自分の意見をわかりやすく伝え他人の理解や協力を得ることができる	
	傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	相手の話は聞かずに、意識して丁寧に聴いているわけではない	相手の話を聴くための基本態度 (姿勢、目線、相づち) がとれる	相手の表情や態度を読み取りながら、話を聴くことができる	相手の話を理解しようとする態度 (質問・確認) がとれる	相手の話を理解しようとする態度 (質問・確認) がとれ、一緒に考え意見を言える	
	柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)	自分の意見に反対されたり変更されたりすると抵抗する	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、自分の考えに固執しない	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、それを理解しようとする	周囲の優れた意見を取り入れ、自分の考えや行動を変えられる	周囲の多様な意見を積極的に取り入れ、一人で考えるよりも創造的な成果を出せる	
	状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)	自分は何をすれば周りに貢献できるかわからない	自分の役割は理解しているが、周りに気を配れずひとりよがりになることがある	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解できる	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解し、行動できる	自分の役割を認識しようとする周囲の状況 (人間関係、忙しさ等) に気を配り、物事を良い方向に進められる	
	規律性 (社会のルールや人との約束を守る力)	無断欠席・遅刻が多く、締め切りも守れない	相手に迷惑をかける最低限の礼儀・ルールを理解しているが、守れないことがある	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守る	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守り、他人を不快にさせない行動ができる	約束時間や提出物の期限をきちんと守れ、状況に応じて発言や行動を律することができる	
	ストレスコントロール (ストレスの発生源に対応する力)	失敗や困難に直面すると悩んだりパニックになる	失敗や困難に直面すると一人で思い悩む	ストレスを感じるのは一過性のことと考え重く受け止めない	ストレスの原因をみつけ自力でまたは他人の力を借りて取り除くことができる	失敗や困難に直面しても、ストレスを力に変えて解決策を模索できる	
シンキング (考え抜く力)	課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	他人から与えられる目的・課題をうのみにする	やっていることの目的・課題は何かを意識することがある	他人の意見・助言を得て、やっていることの目的・課題を発見できる	自分の力で、やっていることの目的・課題を発見できる	情報収集等を通じて現状を正しく分析し、それをふまえて目的・課題を明らかにできる	
	計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)	計画を立てずに行動することが多い	計画を立てて行動するが、見通しが甘く予定通りにならない	計画を立てて行動する	計画を立てて行動しつつ、適宜、計画を見直し予定通り物事を進められる	手順や方法の優先順位を決定し計画的に物事を進め、うまくいかなかったときの解決策も考えられる	
	創造力 (新しい価値を生み出す力)	新しいアイデア・解決方法を考えられない	新しいアイデア・解決方法を考えようと意識することがある	アイデア・解決方法は出すが、独創的ではなく前例を真似ることがある	独創的なアイデア・解決方法を創り出そうとする	前例にとらわれず従来の常識や発想を転換し、独創的なアイデア・解決方法を創り出せる	



総得点

令和元年度学生による地域活性化プログラム成果発表会

【 意見シート 】

令和元年 12 月 7 日 (土)

本日の発表についてお聞かせください。この意見シートは各取組の優劣を判断するものではありませんので、忌憚のないご意見をお願いいたします。該当するものに○をつけてご意見をご記入ください。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔1〕 あなた様の所属を教えてください

1. アドバイザー 2. 一般参加者 3. 保護者 4. 本学の学生 5. 本学教職員
6. 本学以外の学生(大学生・高校生) 7. その他()

〔２〕各ゼミの発表内容についてお聞きします（発表順）

① ○○ゼミ：テーマ

- Q 1 取組テーマ(タイトル)と内容は合致していましたか。
1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
-
- Q 2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。
1. 役立つ 2. どちらともいえない 3. 役立たない
-
- Q 3 学生の取組として評価できると思いますか。
1. 高く評価できる 2. 評価できる
3. やや物足りない 4. あまり評価できない
-
- Q 4 発表の仕方についてどう感じましたか。
1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題あり
-
- Q 5 取組の内容や発表に対するご意見をご自由にお書きください。

令和元年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート

問 3 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなたの自身の社会人基礎力（前に読み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。（1つに○）

1	上昇した	2	どちらともいえない	3	上昇していない
---	------	---	-----------	---	---------

問 3で「3 上昇していない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問 4 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に読み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。（1つに○）

1	ほぼ全員が上昇した	2	上昇した学生と上昇していない学生が半々位	3	上昇していない学生が多い
---	-----------	---	----------------------	---	--------------

問 4で「3 上昇していない学生が多い」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問 5 地域活性化プログラム全体において、改善が必要と思われることなど、気づいた点がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力感謝いたします。

令和元年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査

令和2年1月
長岡大学 教務委員会
地域活性化プログラム運営部会

このアンケートは、学生の皆さんから令和元年度「学生による地域活性化プログラム」について率直なご意見を伺い、これをもとに次年度以降の活動に向けた改善を目的として実施します。なお、アンケートの集計結果は公表いたします。
また、アンケートの回答および結果は以下の点に注意し取り扱われるため、安心して回答してください。
・アンケートの回答が、成績に影響することはありません。また、この調査の目的以外で使用されることはありません。
・集計結果の公表にあたって個人が特定されることはありません。
・「学校法人中越学園個人情報保護に関する規程」に従って、厳正に管理します。

※回答者のゼミナール名、学籍番号、氏名をご記入ください。

ゼミナール名	
学籍番号	
氏 名	

問 1 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。（1つに○）

1	高まった	2	どちらともいえない	3	高まっていない
---	------	---	-----------	---	---------

問 1で「3 高まっていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問 2 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。（1つに○）

1	役立った	2	どちらともいえない	3	役立っていない
---	------	---	-----------	---	---------

問 2で「3 役立っていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。